

# 復興進む 古里・小高

## 寄り添い続ける これからも



真新しい防潮堤を歩く後藤さん。更地になった自宅跡を眺めながら「この街のためにできることを探していきたい」と話した。3月11日、福島県南相馬市小高区浦尻地区で(松崎未来撮影)

### 東日本大震災 7年



福島県沿岸地域 ※緑円が原発から20km圏

復興の進展は目覚ましいが、被災者への寄り添い続けることが求められる。古里・小高の復興は、被災者への支援と、地域社会の再生が鍵となる。

東日本大震災の発生から7年。福島県南相馬市小高区出身の後藤の自宅があった浦尻地区はその最南端。原発からは10kmほどの距離。震災の日、午前中に中学校の卒業式があり、地震が発生した午後2時46分には自宅にいた。大きな揺れと、大きな地響きに「津波が来る」と直感した。自宅は海岸から100mも離れていない。すぐさま、工学部に入学者郡山市で1人が高校を卒業する来年3月までは暮らしを始めた。入学後、サークル「建築研究会」に所属し「復興に何かしら関わりたい」と同級生と「災害対策研究班」を立ち上げた。

震災の日、午前中に中学校の卒業式があり、地震が発生した午後2時46分には自宅にいた。大きな揺れと、大きな地響きに「津波が来る」と直感した。自宅は海岸から100mも離れていない。すぐさま、工学部に入学者郡山市で1人が高校を卒業する来年3月までは暮らしを始めた。入学後、サークル「建築研究会」に所属し「復興に何かしら関わりたい」と同級生と「災害対策研究班」を立ち上げた。

「自分のことのように本当にうれしかった。私たちの誇りです」

### 歯学部兼任講師 青

愛がかった。都内で歯科医院を営む青山さんは、可能性もあると青山さん以前からマウスピースの有用性を説いており、モヤアゴなど身体の成長にマウスピースの作成を依頼した。



メダルを

### 快挙支えたマウス



原選手に初めて作ったマウスピースと青山さん

手帳に日記をつけていた。もともと、文庫本2冊分合わせたほどのサイズの手帳で、視野を広く、文章を書きつける。うと掛け持ちで始め、映画や遊園地、たばこ店で靴を扱うように、写真貼ったなり、スニーカーの魅力を、友人とあちこち訪ね、スニーカーもあって、歴史を感じます。

### 今月のテーマ

# 最近ハマッ